

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670800655		
法人名	社会福祉法人 光風会		
事業所名	グループホーム はまゆう		
所在地	山形県酒田市宮野浦3丁目20-1		
自己評価作成日	平成 21年 9月 9日	開設年月日	平成 14年 9月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成 21年 10月 2日	評価結果決定日	平成 21年 10月 21日

(ユニット名 はまゆう)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念「ゆったり、たのしく、笑いのある時を」を掲げ、毎日をひとりひとりのペースに合わせ、ゆっくり過ごしていただけるように支援しています。テラス前の畑では野菜を植え、とれたての新鮮な野菜を食べています。利用者の方々は、共に助け合い、支え合いながら生活をされています。職員は、人生の大先輩である利用者の方々から、日々いろいろのことを学び、共に喜び、楽しく過ごさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各居室前のベンチ風コーナーでの一休み、リビング内のゆったりとしたソファでの語らいなど、一人ひとりが思い思いに過ごせるようになっており、さらに今年度は、「小上がりの畳の間に床と同じ高さの「フラットな畳の間に」に改修する、トイレの床を新しいものに貼り直す、大型の薄型テレビを設置するなど、利用者がより安全で快適に過ごせる取り組みに力を入れています。
また、利用者が食べたいものを一緒に買いに行く「利用者本位の食事」への支援、1日3回行われる居室内の温度チェック、年間で計6回行われている避難訓練など、きめ細やかでしっかりとした取り組みも続けられており、利用者が、楽しく、生き生きと、安心して暮らせるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・ホーム内に当事業所の理念「ゆったり、楽しく、笑いのある時を」を掲げています。また、「地域に感謝、貢献できるホームを目指します」を新たに掲げ、職員が日々頭に入れて支援しています。	「ゆったり、楽しく、笑いのある時を」「地域に感謝、貢献できるホームを目指します」という理念を、玄関やリビングに掲げ、職員は日々意識しながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・当事業所が、自治会の会員となり、自治会の行事として、文化祭、お元気講座、運動会、法人の夏祭りへの参加や、神社の清掃活動を行い、交流に努めています。	自治会に加入しており、文化祭、お元気講座、小学校の運動会、法人の夏祭りへの参加、また、神社の清掃活動を自主的に行い、地域とのつきあいを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・ホームでは神社の清掃活動を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・定期的に会議を行い、地域の方や家族、市の職員から意見をもらいサービスに繋がるように努めています。	評価結果、事業報告、今年度の計画予定などを議題とし、市担当者や地域包括支援センター職員等も出席して年6回開催されており、より積極的に意見を出してもらいたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市の担当者の方に運営の事で相談したり、アドバイスをもらったりしています。	介護相談員の受け入れやホーム運営上の相談を通して、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	・夜間のみ玄関に鍵をかけていますが、他は見守りを行い身体拘束のない支援をしています。	身体拘束に関する資料が全職員に回覧されており、職員に浸透されている。また、利用者への目配りや見守りを重視して、日中は鍵を掛けることなく過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・外部研修に参加したり、資料を回覧したり、また、職員がお互いに声掛けをし合い、虐待を見過ごすことがないようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・資料を回覧し誰でも見られるようにして、利用者には説明できるように努めていますが、実際の活用はありません。また、母体の社会福祉士に相談にのっていただくようにもしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時に契約書や重要事項説明書の説明を行いながら理解をしてもらっています。また、解約については不安のないよう、十分に話をして理解をもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者は日常的な生活の中で、家族からは訪問時や連絡のあった際に話す機会をもち、要望や意見を伺い反映させています。また、玄関先に苦情受付先を明示し、意見箱を設置しています。	利用者の意見等は日常の暮らしの中で、また、家族の意見等は面会時や電話で把握し、ホームの運営に反映させるようにしている。また、玄関には意見箱も設置されている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者参加の職員会議や、その都度職員の意見を聞く機会をつくり、反映に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・財政的に厳しく大変ですが、出来る範囲内で整備に努めています。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・積極的に外部の研修に参加すると共に、当事業所内での研修会も行き育成に努めています。	県内のグループホーム連絡協議会や社会福祉協議会の研修に参加しており、復命書の作成や伝達講習が行われている。また、医務研修などの内容の研修も開催されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・山形県の認知症グループホーム連絡協議会の研修や実習に参加したり、酒田市サービス事業連絡協議会入所部会の会議に参加して、情報交換や交流を図っています。	県のグループホーム連絡協議会や市のサービス事業連絡協議会等の研修や実習に参加している。また、交換実習での交流など、情報交換をしながら利用者サービスの向上にも生かしている。	

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の生活状況やニーズを把握し、また、話しを聞き誠意をもって接することに心掛け、不安が軽減するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族に電話をしたり、自宅を訪問して話す機会をつくり、ニーズを把握し、親身な姿勢を持つことに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ニーズに合わせたサービス提供ができない時や、早急な対応が必要な場合は、話しをした上で他事業所や他サービスを勧めることもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・調理、裁縫、畑仕事等の作業を一緒にする機会を設け、教えてもらうように心掛けて、共感し合うようにしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・情報を伝え意見交換をしながら、本人にとってよりよい方向性を探り、生活していただけるようにしています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	・電話やハガキなどで関係継続の支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・関係がうまくいくように、支援員が利用者同士の代弁者となり、また調整役となり支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・母体の老人福祉施設に入所した場合は、本人の様子を見にいたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活の中で、本人の話をよく聞き、一人ひとりの思いや希望の把握に努めています。困難な場合でも、本人の表情や行動、言葉からの思いを感じとることに努め、また家族からの情報提供によって本人本位になるように支援しています。	日々の関わりの中で利用者の話をよく聞き、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。また、困難な方は家族からの意見を参考にしながら、利用者の表情、行動、言葉からも思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用前にケアマネージャーや家族等からの情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの状況を観察し、個人ケースに記録し、また申し送りを行い、職員が情報を共有し本人の有する力を生活の場で継続していけるように支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・各担当で本人、家族から要望等を聞き、アセスメントを行い、計画に入れています。	利用者ごとに担当職員を決めており、家族とも毎月のように面会や電話で話し合い、それぞれの意見や要望を取り入れて介護計画が作成されている。また、ミニ・カンファレンスも行われており、必要な見直しを行うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人ケース記録に日々の様子を記入し、情報の共有し実践しています。また、気づきや変更があった場合は、ミニカンファレンスを行って計画の見直しに努めるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源を活用することは、なかなか難しいですが、神社の清掃や地域の文化祭に作品を出展したりしながら、本人の心身の力を発揮できるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族が希望する医療機関を受診し、定期的な通院をしています。また、必要時には、直接医療機関に連絡をとり、適切な対応を行うようになっています。	家族の協力も得ながら、本人や家族の希望するかかりつけ医に受診している。また、複数の医師がホームに往診に来てくれる体制をとっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日、体調記録を記入し、母体の看護師に回覧しています。また、体調に変化があった場合は、看護師より診てもらい、適切な指示のもと、医療機関等に連絡、受診するよな体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した場合は定期的に状態確認に行き、また病院関係者と情報交換を行い、早期退院ができるように配慮しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	・本人や家族と話しをする機会に、重度化した場合の方向性などを確認するようにしています。	利用時に家族等に話をしており、状態変化に合わせて家族やかかりつけ医とも話し合い、重度化した場合の方針や対応を決めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時のマニュアルを回覧したり、看護師より応急手当や初期対応についての研修を行っています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・ホーム独自の避難訓練や母体施設と一緒に、地域合同の災害時の非難訓練を行っています。	昼と夜の災害発生を想定し、ホーム独自の訓練と併設施設との合同訓練が行われている。また、県防災学習館で行われた講習にも職員を派遣し、避難・誘導体制の充実に役立っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の大先輩として尊重し、日々の生活の中で誇りやプライバシーを損ねないように対応や言葉使いに気をつけています。	「個人情報に関する基本方針」を利用開始時に説明し、家族からの同意書をももらうようにしている。また、職員の入職時には「誓約書」を書いてもらい、人格の尊重やプライバシーに配慮したサービス提供を行うようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・意志や希望が言えるような声掛け、環境作り、促しや働きかけをしながら本人の納得がいくように支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・1日の流れはあるものの、各自のペースに合わせて、無理強いせず希望に合わせて過ごしていただくようにしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・本人にまかせていますが、必要時には職員からそれとなく促し整えてもらうようにしたり、ひと工夫でおしゃれができるように支援したりしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食べたい物を聞いたり、一緒に買い物に行き食材を見たり、ホームの畑から新鮮な野菜を収穫して食べています。また、調理や後片付けも一緒に行っています。	利用者の希望を取り入れながらホーム独自の献立を作成し、買い物、畑での収穫、調理、食事、後片付けなど、一人ひとりの好みや力を活かした支援が行われている。また、外食、行事食、弁当開きなども取り入れられている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・本人の状態に状態にあわせ、量を調整したり、調理方を工夫し、刻んだり軟らかくしたりしながら摂取していただいています。食事時には必ずお茶を出し、午前、午後の水分補給以外にも、水分は取っていただくように声掛けや飲み物の工夫をしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、個々に合わせた口腔ケアをしています。出来るだけ、本人にさせていただき、不十分なところは声掛けしたり、援助したりしています。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェックを行い、個々の排泄パターンの把握に努め、声掛けや誘導を行い、排泄の自立に努めています。	排泄チェックをこまめに行い、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、利用者に合わせた声かけ・誘導などの個別支援が行われており、排泄の自立度が向上した方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の状況によって、水分補給の量を増やしたり、軽い運動を促したり、乳製品を取っていただいたりしています。また、トイレ時にお腹をマッサージしたりもしています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・入浴は毎日午後に設定していますが、本人の気分や体調に合わせて入浴をしていただけるように支援しています。	入浴日や時間を一応決めてはいるが、体調や希望等にも配慮しながら、支援内容を工夫するようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人に合わせて休まれていただいています。眠れなかったり、落ち着かなかったりする方には、側に寄り添い話をしたり、見守ったりして支援しています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人のファイルに処方箋を入れ、常に確認できるようにしています。薬の管理は職員が行い、薬の確認、服用まで確認しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々の能力やに合わせて、調理や掃除、畑仕事、裁縫などをしていただき、必ずお礼を言うことで張り合いが出るように努めています。また、レクリエーションも個々に合わせた物を提供し、楽しんでいただいています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買い物、ドライブ、見学等には外出しているが、その日の希望にそっての外出は難し状態です。また、家族の協力も得て外出できるように促し、行ってもらっている事もあります。	天候や体調に配慮しながら、買い物、畑作業、散歩、神社の清掃などの日常的な外出が支援されている。また、ドライブや文化祭見学などの外出支援も企画されている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ホームの金庫で預かっていますが、本人の強い希望で自分で持っている方もいます。その都度、用途に合わせ、使えるように支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・自分で電話をかけることは難しいですが、希望時には電話をかけて、話しができるようにしています。また、手紙をいただいたりした時には、返事を書けるように支援しています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感のある飾りや作品、活動時の写真の掲示などをして、季節を感じ、掲示物を見ることにより、思ったり、考えたり、笑ったりと過ごせるようにしています。	南向きで日当たりの良いゆったりとしたリビング、季節の飾り付けや作品が掲示された廊下、すぐに腰を降ろせる居室前のベンチ、自然食レストラン風のオシャレな造りの食堂など、ゆったりと穏やかな気持ちで過ごせる共用空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食事をするところ以外にホールにはソファを置き、また、和室コーナーには座椅子や座布団を置き、テラスには腰掛けるスペースもあるので、個々の気分に合わせて、独りになったり、利用者同士で過ごしたりできるようにしています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・部屋には、本人の使い慣れたタンスや道具、人形や写真等を置き、本人や家族の意向も取り入れた部屋作りをしています。	使い慣れた椅子、思い出の写真、季節の花、位牌、お供えの水とご飯など、その人らしさを大切にした居室となっている。また、室温の確認は1日3回行われ、適切な温度管理に取り組んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホーム内は、段差はなく、危険と思われる箇所があれば改善に努め、自分でできことは、見守りながら、していただくようにしています。			